

4 令和6(2024)年度までの検討状況

(1) 令和5(2023)年度までの検討状況

八ヶ岳少年自然の家の抜本的な老朽化対策の検討過程において、令和4(2022)年6月、敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されていることを確認したため、長期的な安全性の確保を考慮し、児童生徒の自然体験の場を継続的に確保する手法について、これまで幅広く検討を進めてきました。

令和5(2023)年度には、自然教室の目的を改めて整理するとともに、児童生徒及び保護者、校長へのアンケートを実施し、自然教室の意義や教育効果を確認し、「自然教室実施に当たっての視点」を作成しました。

自然教室実施に当たっての視点	
視点1	自然体験活動の実施 （野外炊飯、キャンプファイヤー、登山、スキー、星座観察等） 自然の中で友人と協力しながら、達成感を味わえる様々な「直接体験」ができる活動を実施
視点2	集団宿泊活動の実施 集団の中でルールを守り、役割分担をしながら「協調性」「規律性」「責任感」を育み、より良い人間関係づくりができる集団宿泊活動を実施
視点3	活動時間の確保 （2泊3日、移動時間3～4時間以内） 十分な体験活動が実施できるよう活動時間を確保するための宿泊日数と移動時間を確保
視点4	宿泊施設の安全性の確保 （各種ハザードマップの確認等） 児童生徒の安全を最優先にした宿泊施設の選定
視点5	保護者の費用負担 （現状と比較して過度な負担とならないよう配慮） 保護者の負担が大幅に増加しないよう配慮
視点6	教職員の業務負担 （教職員の働き方・仕事の進め方改革に配慮） 教職員の過度な業務負担とならないよう配慮

その上で、「現地での再編整備」、「富士見町内での移転整備」、「他施設の活用」の3案について、上記の視点に基づき比較を行い、課題等を把握するとともに、実現可能性のある手法の絞り込みを進めました。

その結果、「現地での再編整備」については、レッドゾーン・イエローゾーン以外での整備案について、費用等を含めた詳細な整備内容を検討しました。

「富士見町内での移転整備」については、八ヶ岳山麓付近の6件の候補地について、それぞれ土地の詳細な状況調査や費用等を含めた詳細な整備内容の検討、現所有者との調整を行いました。

「他施設の活用」については、可能性のある自治体や施設等の更なる調査、施設や周辺環境等も含めた詳細な利用条件等の確認、学校との調整などを行いました。

※以上については、令和6(2024)年2月の文教委員会において報告済み

令和5(2023)年度までの検討結果まとめ

検討案	検討の方向性と主な検討事項
現地での再編整備 (レッドゾーン・イエローゾーン以外での整備)	<ul style="list-style-type: none">● 費用等を含めた詳細な整備内容の検討 など
富士見町内での移転整備	<ul style="list-style-type: none">● 土地の詳細な状況の調査● 費用等を含めた詳細な整備内容の検討● 現所有者との調整 など
他施設の活用 (周辺自治体、国立・公立施設、民間施設の活用)	<ul style="list-style-type: none">● 可能性のある自治体・施設等の更なる調査● 施設や周辺環境等の状況や詳細な利用条件等の確認● 学校との調整（モデル実施等を含む。） など

（２）令和 6（2024）年度の検討状況

3つの案の検討の方向性と主な検討事項に基づき、それぞれ詳細に検討しました。

- ※ 令和 7（2025）年 1 月の文教委員会において報告済み
- ※ ただし、「現地での再編整備（レッドゾーン・イエローゾーン以外での施設整備案）」及び「富士見町内での移転整備」に関する概算工事費については、令和 7（2025）年 7 月時点で更新



現地での再編整備

イ 再編整備案の検討

劣化調査の結果や再編整備の施設運営などを考慮し、改修をメインとする案と、新築して集約化する案について検討しました。

【再編整備の考え方】

- 既存配置を生かし、工事施工や効率的・効果的な施設運営等を考慮し、建物を配置します。
- 自然教室の継続性を考慮し、居ながら工事が可能となる配置計画とします。
- レッドゾーン内にある建物は、擁壁の設置や老朽化度合い、建物の連続性等を考慮し、場所を移転します。
- 現行の自然教室の実施を前提とし、施設規模の適正化の観点から宿泊定員を縮小します。

CASE-A（改修をメインとし、レッドゾーン対応として擁壁を設置）	CASE-B（新築して集約化することにより建物はレッドゾーンを回避）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊棟（花・山・村・星の棟）を既存の位置で新築し、それ以外は改修 ・ 居ながら工事の実施のため、仮設建物を設置 ・ レッドゾーンの対応として、ワーキングホール・鳥の棟付近に擁壁を設置 ・ 延床面積 約 11,000 m² ・ 概算工事費 約 59～66 億円 (令和 6(2024)年 10 月時点) ・ 工事期間 約 6 年程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レッドゾーンを避けて、現バーベキュー場・現自由広場に、宿泊・管理・体育館機能を集約して新築し、バーベキュー場は第 2 駐車場に新築 ・ センターハウスは研修機能に改修 ・ アストロハウス・野外炊飯場は改修 ・ 延床面積 約 10,000 m² ・ 概算工事費 約 68 億円 (令和 6(2024)年 10 月時点) ・ 工事期間 約 3 年程度
 <p>この図は、CASE-Aの敷地計画を示しています。赤い斜線がレッドゾーンを示し、その中にアストロハウス、ワーキングホール、鳥の棟、センターハウス、バーベキュー場、野外炊事場、宿泊棟（花・山・村・星の棟）が配置されています。ワーキングホールと鳥の棟の間に擁壁が設置されています。新築部分には破線が描かれています。</p>	 <p>この図は、CASE-Bの敷地計画を示しています。赤い斜線がレッドゾーンを示し、その外側にアストロハウス、野外炊事場、バーベキュー場、センターハウス（研修）、体育館、宿泊棟、管理棟が配置されています。新築部分には破線が描かれています。</p>

【検討結果】

CASE-A は概算工事費が約 59～66 億円となり、自然教室を実施しながらの居ながら工事となるため、工事期間は約 6 年程度と長期間になる一方で、CASE-B は概算工事費が約 68 億円で CASE-A とほぼ同程度となり、工事期間が約 3 年程度と、CASE-A より短期間での整備が可能となり、概算工事費及び工事期間とも CASE-B の方が効果的であることから、レッドゾーンを避け、新築して集約化する案で検討しました。

ウ レッドゾーンを避けたイエローゾーンでの施設整備案

現地での再編整備として、レッドゾーンを避けて、イエローゾーンでの施設整備を検討しました。

【配置の考え方】

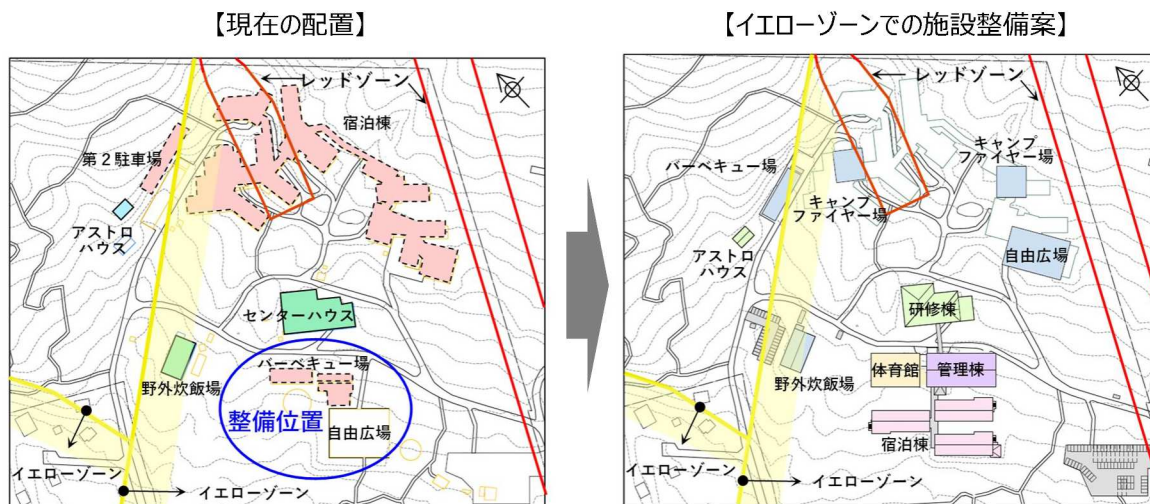
- 敷地中央の通路に面して、現バーベキュー場、自由広場付近に、宿泊棟、管理棟、体育館を集約して新築します。
- センターハウスは、研修棟として大規模改修を行い、全ての棟を渡り廊下で接続し、バリアフリー化を図ります。
- 野外炊飯場は改修し、バーベキュー場は現第2駐車場に新築します。
- 自由広場は宿泊棟跡地、キャンプファイヤー場はワーキングホール・宿泊棟跡地に整備します。

【整備内容】

- 宿泊定員は、利用状況等を考慮して、530名から480名に削減し、規模の適正化を行います。
- 民間利用等も考慮し、利用者ニーズの高い体育館を新たに整備します。
- 宿泊棟、管理棟、体育館を効率的に集約して配置することで、現在から延床面積を約10.3%削減します。

【概算工事費】

約68億円（令和6（2024）年10月時点）



【検討結果】

- 法的な建築行為の規制や制限等はありませんが、イエローゾーン内での施設整備になるという課題があります。
- 野外活動エリアはイエローゾーン内となります。
- イエローゾーンでの整備は長期的な安全性の確保に課題があり、「自然教室実施に当たっての視点」（15頁参照）における「宿泊施設の安全性の確保」の視点に適合しないことから、今後の検討から除外することとしました。

エ レッドゾーン・イエローゾーン以外での施設整備案

敷地内でレッドゾーン・イエローゾーンに該当しないエリアはアストロハウス付近となり、比較的穏斜面となっていることから、建物の設置が可能のため、このエリアでの施設整備を検討しました。

【配置の考え方】

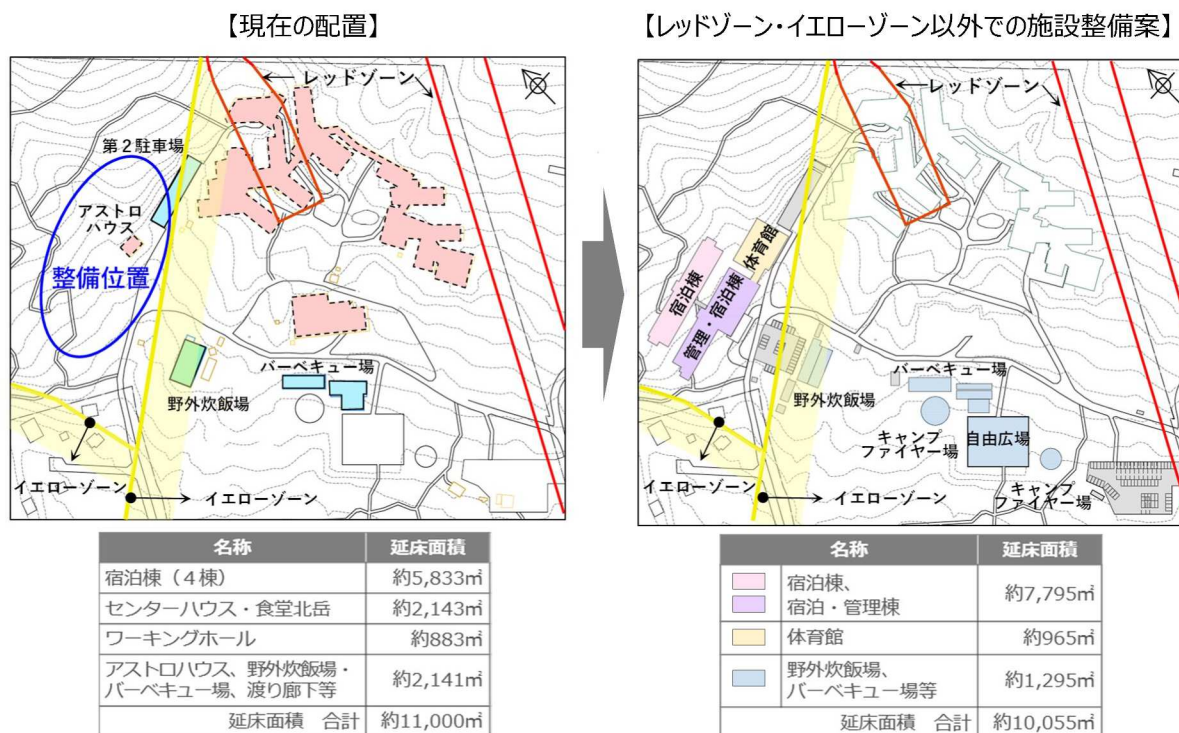
- 敷地西側の通路に沿って、宿泊棟、管理・宿泊棟、体育館を集約して配置します。
- 野外炊飯場とバーベキュー場は、大規模改修等を行い、継続利用します。
- バーベキュー場は、現在と同位置とします。

【整備内容】

- 宿泊定員は、利用状況等を考慮して、530名から480名に削減し、規模の適正化を行います。
- 民間利用等も考慮し、利用者ニーズの高い体育館を新たに整備します。
- 宿泊棟、管理・宿泊棟、体育館を集約して効率的に配置することで、現在から延床面積を約8.6%削減します。

【概算工事費】

約72億円（令和6(2024)年10月時点）⇒約77億円（令和7(2025)年7月時点）

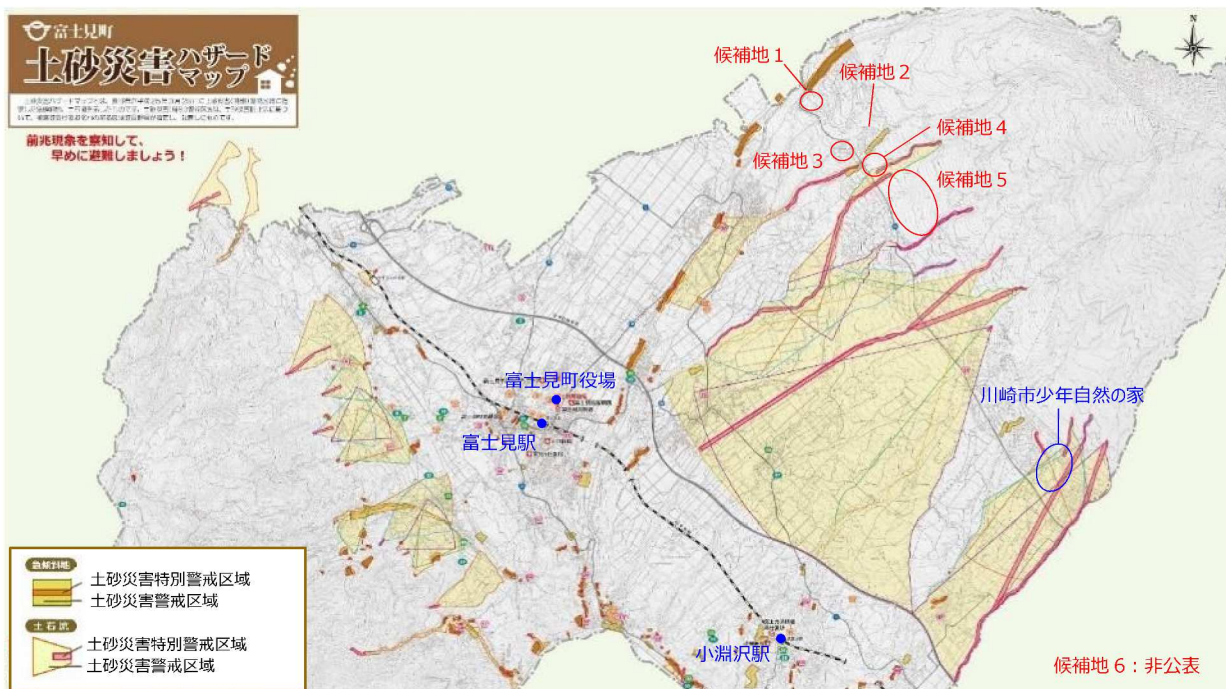


【検討結果】

- レッドゾーン・イエローゾーンを避けた施設整備が可能です。
- 野外活動エリアはイエローゾーン内となりますが、台風や大雨時に屋外での活動は実施しないことや、急な荒天時には施設内への避難が可能なることから、現地での再編整備案は本案を基本としました。

富士見町内での移転整備

40年以上にわたり、自然教室を富士見町で実施してきた実績とノウハウを継承するため、富士見町内での移転整備の可能性の検討に当たり、富士見町役場に移転整備が可能な未利用地等があるかを照会し、八ヶ岳山麓付近に6件の候補地があるとの提案を受けました。



※富士見町土砂災害ハザードマップを基に作成

ア 候補地の検討

候補地について、敷地の規模や土砂災害警戒区域等の指定の有無、近隣状況を調査し、現地での再編整備で検討した施設規模を基本とした施設整備の可能性を検討しました。

【検討結果】

- 多くの候補地では敷地が狭い等の理由で移転は困難な状況でしたが、候補地3は敷地に一定の広さがあるため、施設整備と野外活動が可能であり、移転の可能性が認められました。

番号	所有者 (R6.11時点)	名称	面積 (ha)	敷地内	隣接	建物	判定	判定理由
1	財産区、富士見高原保健地管理(株)	立場総合グラウンド	5.35		急傾斜地 R・Y		×	・別荘地に隣接
2	富士見高原リゾート(株)	元藤村学園	3.29			有	×	・敷地が狭い。
3	厚生労働省	元ヒルサイドホテル 富士見	8.49			有	○	・敷地に一定の広さあり。 ・施設整備・野外活動が可能
4	富士見町		20.94	敷地一部 土石流 R・Y	急傾斜地 Y		×	・レッドゾーン・イエローゾーン含む。
5	東京都		45.17				×	・未整備地のため、大規模開発が必要
6	所有者の意向により 非公表			敷地一部 急傾斜 Y	急傾斜地 Y		×	・敷地が狭い。 ・イエローゾーン含む。

(R レッドゾーン、Y イエローゾーン)

イ 候補地 3 の移転整備の検討

候補地 3 は、平成 24(2012)年まで宿泊施設として利用されていましたが、現在は閉鎖されています。敷地内にはホテル、職員用宿舎、セミナーハウス等の建物が存置されています。屋外にはテニスコートや広場等の屋外施設が設置され、敷地北西部には散策路が整備されています。敷地には高低差があり、前面道路側が高く、敷地奥側に向かって低くなっており、敷地の高低差を利用して建物と屋外施設が配置されています。

【配置の考え方】

- 既存建物は、規模や老朽化状況等を考慮すると、継続利用が困難であることから、解体して新施設を整備します。
- 敷地には高低差があり、標高が高い前面道路側に管理棟、宿泊棟、体育館を配置し、標高が低い敷地奥側に野外炊飯場やバーベキュー場等の野外活動エリアを配置します。

【整備内容】

- 現地での再編整備で検討した施設規模を基本とし、3棟の宿泊棟や体育館を整備します。
- 既存のテニスコートは、様々な活動等ができる運動場へ整備します。
- 集約して効率的に配置し、現在より延床面積を約 10.5%削減します。

【概算工事費】

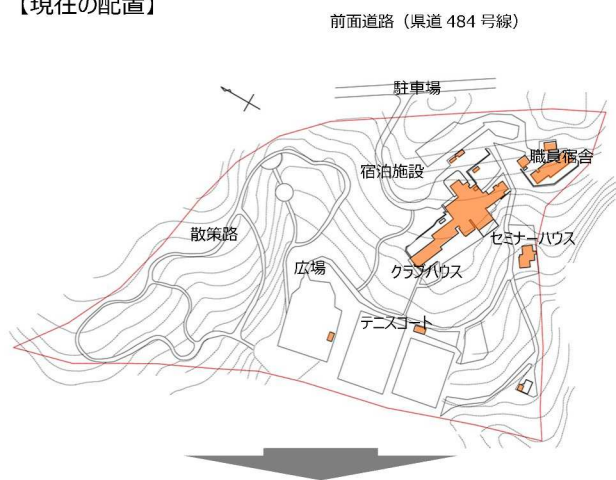
約 68 億円（令和 6(2024)年 10 月時点）
 ⇒約 73 億円（令和 7(2025)年 7 月時点）
 ※土地取得経費等は除く。

【検討結果】

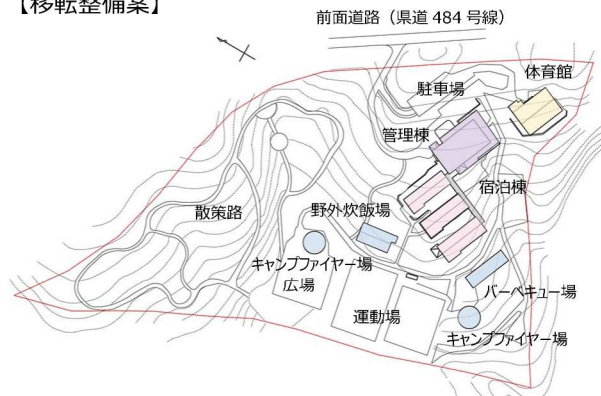
- 現在の敷地面積より大幅に減るものの、必要施設の整備が可能で広さです。
- 敷地の高低差を利用して建物と野外活動エリアを分離し、コンパクトで効果的な配置が可能です。
- 敷地内には散策路もあるため、オリエンテーリング等の活動が可能です。
- 移転整備した場合、八ヶ岳少年自然の家の跡地について、活用方法等の検討が必要です。

名称	延床面積
宿泊棟、 宿泊・管理棟	約7,930㎡
体育館	約890㎡
野外炊飯場、 バーベキュー場等	約1,020㎡
延床面積 合計	約9,840㎡

【現在の配置】



【移転整備案】



他施設の活用

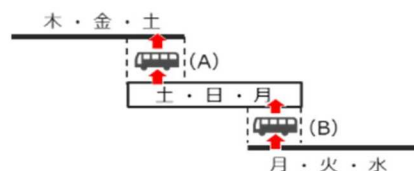
ア 令和6(2024)年度実施分の入札不調について

令和6(2024)年度の自然教室については、いわゆる「2024年問題」等に伴うバス運転手不足による入札不調により、一部の学校においてバスの確保ができず、小学校11校、中学校1校が日程等の変更を行わなければならない状況となりました。

このうち、小学校2校は実施手法の見直しにより、当初の予定どおり実施することができましたが、小学校7校は、土日を含めば往復のバスが確保できる日程※に変更し、八ヶ岳少年自然の家で実施することとなりました。

それでも小学校2校、中学校1校については八ヶ岳少年自然の家での実施ができなくなり、西有馬小学校は神奈川県立足柄ふれあいの村に、菅生小学校は神奈川県立愛川ふれあいの村に、西中原中学校は富士緑の休暇村に、それぞれ日程と実施場所を変更して実施しました。

※ 通常、土日両方を含む日程で自然教室は実施しないが、一部の日程において、八ヶ岳少年自然の家から帰る学校（A）と、八ヶ岳少年自然の家に行く学校（B）のバスを活用することで、往復のバスを確保することが可能



バスの入札不調に伴い日程等変更した学校一覧

	学校名	実施場所	備考
1	川中島小学校	八ヶ岳少年自然の家	当初予定どおり実施（小学校2校） ※実施手法の見直し
2	虹ヶ丘小学校		
3	戸手小学校		日程を変更して実施（小学校7校） ※土日を含めた日程に変更
4	末長小学校		
5	久地小学校		
6	富士見台小学校		
7	向丘小学校		
8	麻生小学校		
9	王禅寺中央小学校		
10	西有馬小学校	足柄ふれあいの村	日程及び実施場所を変更して他施設で実施（小学校2校、中学校1校）
11	菅生小学校	愛川ふれあいの村	
12	西中原中学校	富士緑の休暇村	

イ 他施設で実施した自然教室の検証について

バス運転手不足に起因する入札不調により、西有馬小学校、菅生小学校、西中原中学校は日程及び実施場所を変更して実施しましたが、結果として、「他施設の活用」の前倒し実施となったことから、これら3校の実施結果を令和7(2025)年度の検討に生かすべく、児童生徒へのアンケート及び教員へのヒアリングを実施しました。

令和6(2024)年度に行った他施設での実施校の状況

西有馬小学校

施設名称 神奈川県立足柄ふれあいの村
 所在地 神奈川県南足柄市広町 1507
 実施日程 7月7日～9日
 参加人数 148人

主なプログラム

- 1日目 ウォークラリー、野外炊飯、天体観測
- 2日目 最乗寺ハイキング、キャンプファイヤー
- 3日目 課題別学習、三保ダム見学



集合写真



野外炊飯



食事風景



ハイキング

菅生小学校

施設名称 神奈川県立愛川ふれあいの村
 所在地 神奈川県愛甲郡愛川町半原 3390
 実施日程 7月16日～18日
 参加人数 135人

主なプログラム

- 1日目 あいかわ公園散策（雨天中止）、クラフト、野外炊飯
- 2日目 登山（雨天→演芸大会）ピザづくり、キャンプファイヤー
- 3日目 宮ヶ瀬ダム、相模川ふれあい科学館見学



食事風景



野外炊飯



演芸大会



キャンプファイヤー

西中原中学校

施設名称 富士緑の休暇村
 所在地 山梨県南都留郡鳴沢村鳴沢字
 ジラゴンノ 8532-5
 実施日程 6月16日～18日
 参加人数 469人

主なプログラム

- 1日目 富士山5合目登山、野外炊飯
- 2日目 ハイキング（紅葉台）、風穴・氷穴見学、キャンプファイヤー
- 3日目 オリエンテーリング



富士山散策



氷穴見学



食事風景



野外炊飯

(ア) 児童生徒へのアンケート

他施設で自然教室を実施した3校の児童生徒を対象にアンケートを実施しました。なお、西中原中学校については、2年生が前年に八ヶ岳少年自然の家で自然教室を実施しているため、比較検討のため、2年生にもアンケートを実施しました。

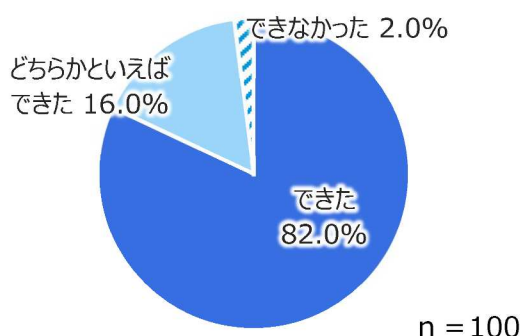
「自然教室で充実した活動ができたと思いますか」という問いに対し、「できた」又は「どちらかといえばできた」と回答した児童生徒の割合は、西有馬小学校 98.0%、菅生小学校 92.8%、西中原中学校の1年生 97.2%、同校の2年生 93.8%と、いずれも9割を超えており、ほとんどの児童生徒が他施設においても充実した活動ができており、また、利用施設の違いによって、その結果に大きな差はありませんでした。

児童生徒へのアンケート 主な結果1

Q.自然教室で充実した活動ができたと思いますか（単一回答）。

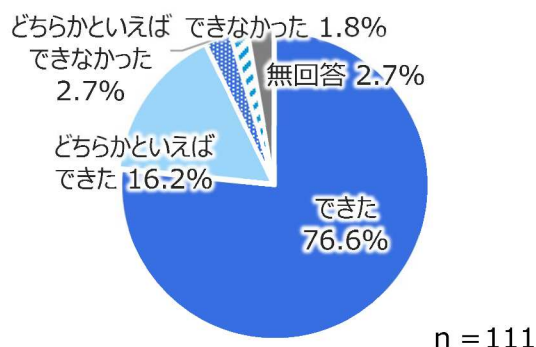
【西有馬小学校5年生】

足柄ふれあいの村利用



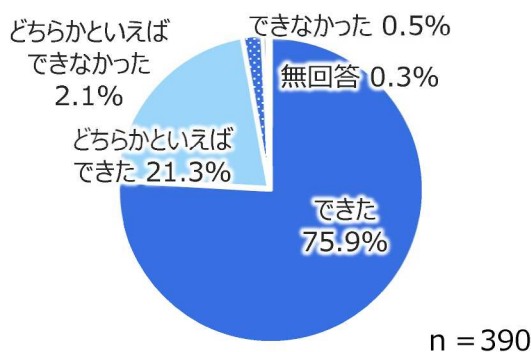
【菅生小学校5年生】

愛川ふれあいの村利用



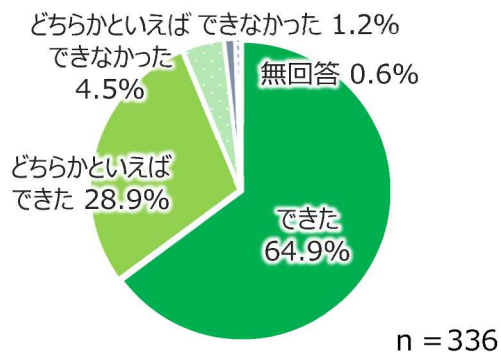
【西中原中学校1年生】

富士緑の休暇村利用



【西中原中学校2年生】

八ヶ岳少年自然の家利用



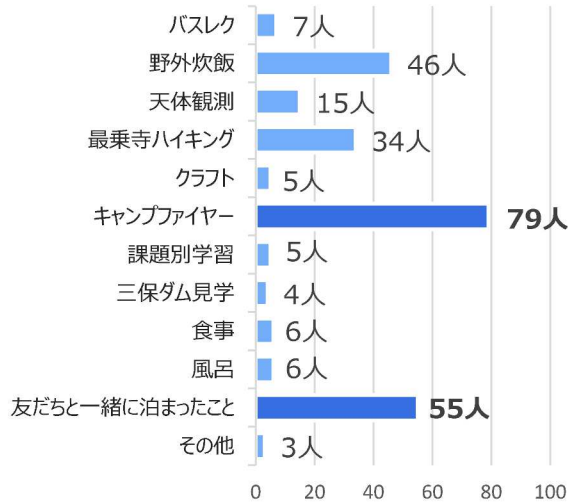
また、「自然教室で印象に残っている活動は何ですか。」という問いに対し、いずれの学校においても、「友だちと一緒に泊まったこと」や「キャンプファイヤー」、「野外炊飯」が上位に選ばれており、利用施設の違いによって、その結果に大きな差はありませんでした。

児童生徒へのアンケート 主な結果 2

Q.自然教室で印象に残っている活動は何ですか（複数回答 3つまで）。

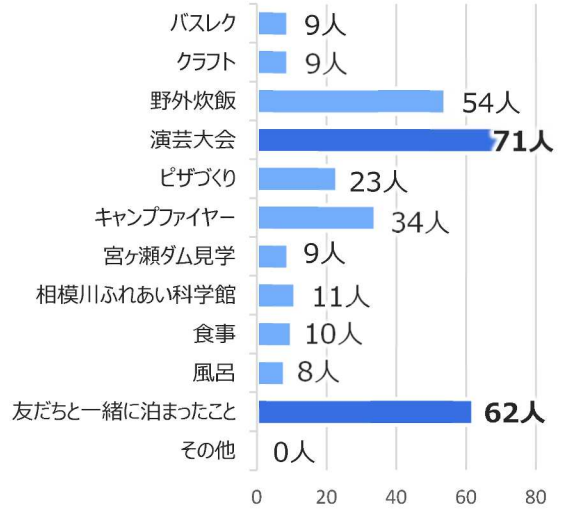
【西有馬小学校 5年生】 n = 100

足柄ふれあいの村利用



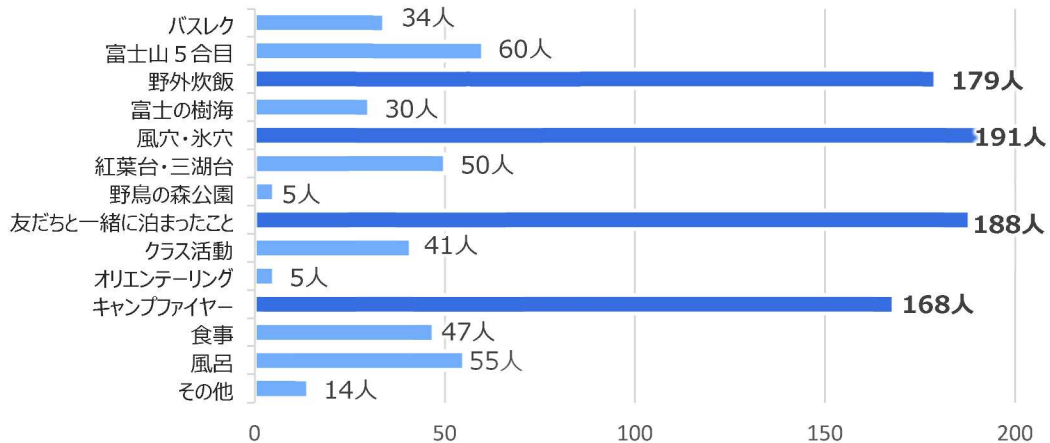
【菅生小学校 5年生】 n = 111

愛川ふれあいの村利用



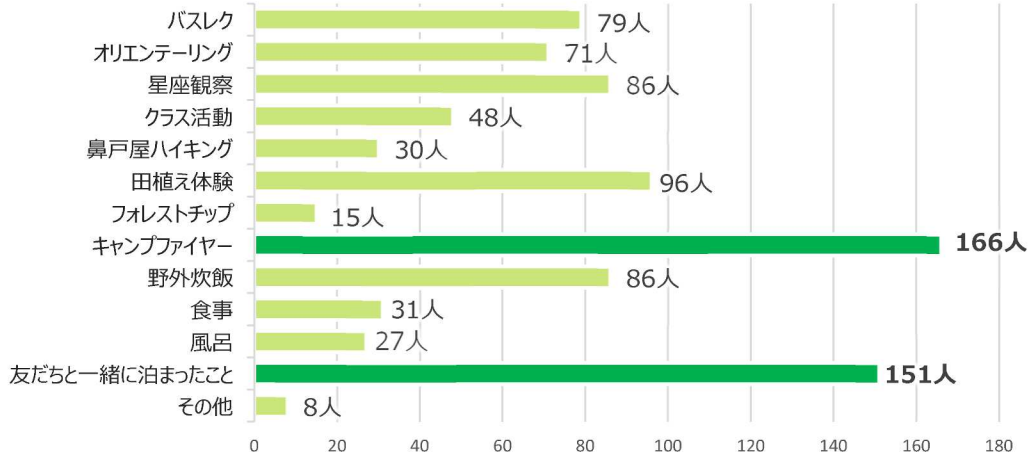
【西中原中学校 1年生】 富士緑の休暇村利用

n = 390



【西中原中学校 2年生】 八ヶ岳少年自然の家利用

n = 336



また、西中原中学校 1 年生については、小学校 5 年生のときに、八ヶ岳少年自然の家で自然教室を実施していることから、「八ヶ岳少年自然の家での自然教室と比べて、施設面等でどう思いましたか」と聞いたところ、「富士緑の休暇村のほうがよかった」又は「どちらかといえば、富士緑の休暇村のほうがよかった」と回答した生徒の割合が 72.5%となり、「八ヶ岳少年自然の家のほうがよかった」又は「どちらかといえば、八ヶ岳少年自然の家のほうがよかった」と回答した生徒の割合 12.3%より多い結果となりました。

なお、その選択肢を選んだ理由として、「富士緑の休暇村のほうがよい」と回答した生徒からは、「5 年生のときは虫が多すぎて楽しめなかった」、「富士山や雲海などが近くできれいに見えてよかった」との回答が、「八ヶ岳少年自然の家の方がよい」と回答した生徒からは、「八ヶ岳少年自然の家では星を観察できる場所があり、星を観察できたと思うので八ヶ岳に行きたかった」との回答がありました。その他、「場所はどこでも変わらない」と回答した生徒からは、「どんな場所でも、クラスの仲間たちと行くことに意味があるし、楽しいと思う」との回答がありました。

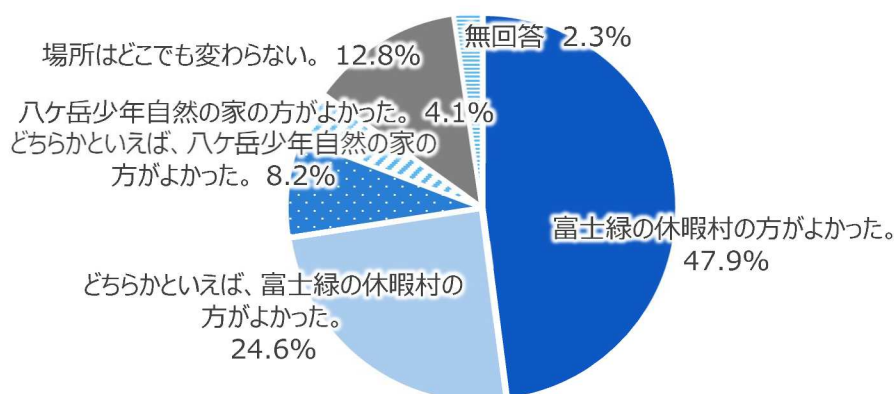
児童生徒へのアンケート 主な結果 3

Q. 5 年生のときの八ヶ岳少年自然の家での自然教室と比べて、施設面等でどう思いましたか。

(単一回答)

【西中原中学校 1 年生】 n = 390

富士緑の休暇村利用



上記の選択肢を選んだ理由

【富士緑の休暇村がよいと回答した生徒】

- 5 年生のときは虫が多すぎて楽しめなかった。富士緑の休暇村のほうが虫も多少いなかったから。
- 富士山や雲海などが近くできれいに見えてよかった。

【八ヶ岳少年自然の家がよいと回答した生徒】

- 八ヶ岳は星を観察できる場所があり、観察できたと思うので八ヶ岳に行きたかった。

【場所はどこでも変わらないと回答した生徒】

- どんな場所でも、クラスの仲間たちと行くことに意味があるし、楽しいと思うので、選びました。

(イ) 教員へのヒアリング

他施設で実施した3校の教員を対象に、ヒアリングシートによる聞き取りを実施しました。

八ヶ岳少年自然の家での実施と比較して、他施設での実施でよかった点について、「移動時間が短いため、行き・帰りに別の施設に行けるなど、活動時間をより確保できる」や「バスの乗車時間が短いため、バス酔いが少ないなど、児童の不安解消につながる」のほか、「児童生徒の体調不良時、保護者による引取時間が短縮されるなど、迅速な対応が可能」など、移動時間が短いことによるメリットについて多くの意見がありました。

一方で、「短期間で何度も現地に下見に行くなど、負担が大きかった」や「八ヶ岳は施設側がきめ細やかな対応をしてくれるので、事前の打合せと当日で異なるといったトラブルはほぼないが、今回利用した施設では、事前の打合せと異なっていたり、雨など活動プログラムが変更となったりした場合の事務手続など、対応に苦慮した」など、初めて利用する施設であることによるデメリット、教員の負担に関する意見が多くありました。

なお、西中原中学校については、添乗員が当日同行する手法で自然教室を実施したため、「添乗員のおかげで、体験活動の段取りや食物アレルギー対応、病院受診などがスムーズに行えた」など、教員の負担軽減につながる意見がありました。

そのほか、施設によっては八ヶ岳少年自然の家とは気候が異なることから、「7～9月上旬の活動は厳しい」といった意見もありました。

教員へのヒアリング 主な意見

【移動時間が短いことによるメリット】

- 移動時間が短いため、行き・帰りに別の施設に行けるなど、活動時間をより確保できる。
- バスの乗車時間が短いため、バス酔いが少ないなど、児童生徒の不安解消につながる。
- 児童の体調不良などの際、保護者による引取時間が短縮されるなど、迅速な対応が可能

【初めて利用する施設であることによるデメリット】→教員の負担

- 短期間で何度も現地に下見に行くなど、負担が大きかった。※事務局での実地踏査は1回のみ。
- 八ヶ岳は蓄積されてきたものがあるため、計画を立てやすく当日も臨機応変に対応できるが、初めての利用だったため、勝手がわからず、活動時間のオーバーや新たに準備が必要となった物品があるなど、対応に苦慮した。
- 八ヶ岳少年自然の家は、きめ細やかな対応をしてくれるので、事前の打合せと当日で異なるといったトラブルはほぼないが、今回利用した施設では、事前の打合せと異なっていたり、雨など活動プログラムが変更となったりした場合の事務手続など、対応に苦慮した。

↓ 西中原中学校は添乗員が当日同行する手法で実施

- 添乗員のおかげで体験活動の段取りや食物アレルギー対応、病院受診などがスムーズに行えるなど、教員の負担軽減が図られた。

【その他】

- 足柄ふれあいの村や愛川ふれあいの村は、川崎とほぼ気温が変わらないので、7～9月上旬の活動は厳しい。